

高い山

神村ふじを

「高い山」は「高山」とも呼ばれる虚空蔵尊の祭礼日のことである。毎年旧暦四月十七日に行われていた。どの地域行事や宗教行事もそうだが、生活形態の変化から普通日に行くことが難しくなり、その周辺の日曜日が祭日になることが多い。コロナ以前は五月十日前後の日曜日に行われていた。

かつては村々で高い山が行われていた。その日に参詣すると願いごとが叶うとされ、集落近くの山にある虚空蔵様に登った。眺めのいいところに莫座もざを敷いて、持参した料理で酒宴を張った。

本来の高い山の姿は、山形県特に村山地方では、境虚空蔵と呼ばれていた白鷹山しらたかに登ってお詣りしてくることだったのだが、白鷹山に登る替わりとして近くの虚空蔵尊でお詣りをしていたのである。

白鷹山は五郡の境。村山三郡置賜おきたま二郡、最上領と上杉領の境を為す信仰の山であり、私の住んで

いる村山地方からは、どこからでもこの白鷹山を望むことができる。

米沢藩中興の祖上杉治憲公は、隠居後、藩の北端にあるこの白鷹山に因んで鷹山と号した。

鷹山公については、地元では米沢藩の財政を立て直し善政を敷いた名君として名高いが、一躍名を知らしめることになったのは、第三十五代米合衆国大統領ジョン・F・ケネディの大統領就任記者会見からである。

ある日本人記者から、「日本人で最も尊敬する政治家は誰ですか？」と問われ、「Yozan Uesugi」と答えたことから、鷹山公が一躍脚光を浴びることになる。記者でさえ鷹山公を知らない人が大半だったそうで、米沢藩主上杉鷹山に対する当時の日本人の認識は推して知るべしであった。このケネディ大統領の言葉のおかげで、日本で名君上杉鷹山公は蘇ったのである。

高い山の日の昼下がり、午後から会議を控えていたので、時間短縮のために車で虚空蔵様をお詣りし、御堂を守る寺のおば様（住職夫人）から少しだけお話を伺った。

昔と違い出店が立つこともなく参詣客もまばらで本当にありがたいと言われ、赤飯のお護符をたくさん頂戴し恐縮してしまった。

何か申し訳ないように気分になり、夕方、再度歩いてお詣りに出かけた。子どもの頃は何ともなかった山道が相当にきつい。息を切らしながらようやく石段を登る。山躰やまつつじ躰が咲きほころんで、薫風が身に心地よく吹き渡る。ようやく虚空蔵尊の祀られている祠に辿り着いた。かつて露店も立つ

た頃の賑わいを思い浮かべながら手を合わせ、開運、安全を願う。

山頂からは、左沢から最上川を挟んだ寒河江市中郷の集落と広く水田が見える。眼下に広がる最上川舟運で栄えた左沢の町並み。かつての大江町長上田郁男氏が、生前、この山に登り、「ここをこうすれば、ここにこんな施設があれば、こんな道路があれば……。ここさ来て、考え考え眺めていんなよ」と熱く語っていたことを思い出す。

滔々とした最上の流れ、遠くかすむ朝日連山、蔵王連峰の山々、おだやかな春の夕暮れのひとときだった。

幼い頃、母に手を引かれて登った高い山の日、額の汗をぬぐいながら飲んだパインサイダーの味、そして滅多に口になかったいなり寿司の甘塩っぱい油揚げの味を今懐かしく思い出す。

若葉風隅に神酒置く石祠　ふじを